

令和6年度 鶴南丸 出港！

令和6年度がスタートしました。時津分校は本校化され、鶴南は本校、高等部西彼杵分教室、五島分校の3校となりました。新しい教職員も迎えて新体制のもと、令和6年度の鶴南丸が出港します。もっと自由な発想と挑戦を楽しむ境地で鶴南の教育を創っていきたいと思います。

ありがたいことに「校長の窓」に対する継続リクエストが多数(?)寄せられましたので2年目に突入させていただきます。束の間の休憩時にでもお読みいただければ幸いです。

さて第1号は、『令和6年度 学校運営方針』の紹介です。

本校ホームページの「学校概要－教育方針・校訓」のところに掲載しています。よかったらのぞいてみてください。

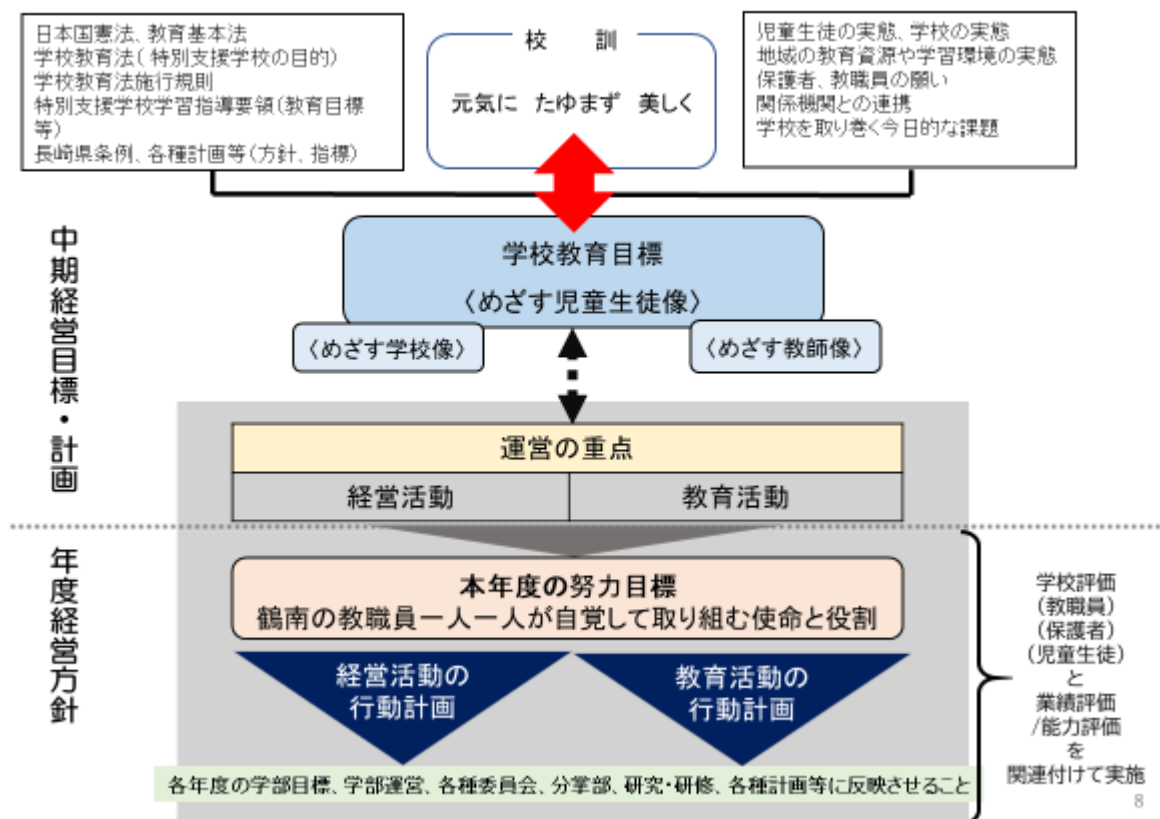
今年度の目玉の一つとして、中高等部一貫教育を推進していきます。中学部と高等部にそれぞれ1名ずつ『中高一貫教育推進担当』を任命しました。「中高一貫教育推進委員会」を新しく組織しました。今年度は、中学部3年生の生徒を中心に将来を「みつめる力」を高められるように高等部との体験活動や共同学習の在り方を工夫していきたいと考えています。

他にも、全校研究の一環として、自立活動の側面から知的障害のある児童生徒の「認知の発達」や「認知の(知る)過程」に関する研究情報を発信していきます。拡大研究部会に「ファシリテーター校内研修会」を設けました。実態把握の充実や各教科等の授業改善につなげられるように教職員の専門性向上にも努めていきます。

そして、高等部西彼杵分教室の取組では、新設された「分校化推進担当(教頭を充てる)」を窓口にして西彼杵分教室の分校化(令和7年度)に向けた業務を確実に遂行してまいります。

もっと自由な発想と挑戦を楽しむ境地で鶴南の教育を創る
 - 「R6 年度 学校運営方針」でめざす！ -

令和6年度 鶴南特別支援学校 学校運営方針 構造図



本年度の努力目標(年度運営方針)

- 鶴南の教職員一人一人が自覚して取り組む使命と役割 -

経営活動の重点	重点に迫るための行動計画
<ul style="list-style-type: none"> ○ 本校教育の広報活動を充実し、学校の魅力を積極発信する。 ○ 定期的にコンプライアンス研修やリスクに関する情報交換の場を設け、「不祥事0」、「交通事故0」、「ハラスメント0」に努める。 ○ PTAとの連携・強化を図り、業務や研修の充実に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ HP、新聞、作品展等により積極的に発信する。 ・ 「よりよい職場に向けて」のワークショップを開催する。服務宣誓等を定期的に開催する。コミュニケーションを活発にする。楽しい職員室にする。 ・ ファミリーサポートプログラムを開催する。PTAのよりよい組織・運営について保護者と語る。
<ul style="list-style-type: none"> ○ 中・高等部の一貫したキャリア教育推進を図るため組織連携を強化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「中高一貫教育推進委員会」を新設・運営(5月、12月)する。 ・ 中学部と高等部にそれぞれ「中高一貫教育推進担当」を任命する。 ・ 中学部と高等部間でキャリア教育の側面からカリキュラム・マネジメントを推進する。
<ul style="list-style-type: none"> ○ 西彼杵分校化(R7年度)に向けて環境整備(小中学部)のほか、高等部と小中学部間の連続性を重視した教育課程を編成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 校長、事務長のリーダーシップのもと、高等部西彼杵分教室に新設された分校化推進担当(教頭を兼務)を窓口、県、県教委、西海市、大瀬戸中学校、時和特別支援学校等と連携し、就学予定者の把握大瀬戸中施工、給食実施(西海市提供)、スクールバス運行(西海市、添乗員)、教育課程編成など分校化業務を確実に推進していく。

学校評価(教職員)(保護者)(児童生徒)と関連付けて実施
業績評価/能力評価を関連付けて実施

13

本年度の努力目標(年度運営方針)

- 鶴南の教職員一人一人が自覚して取り組む使命と役割 -

教育活動の重点	重点に迫るための行動計画
<ul style="list-style-type: none"> ○ 校内横断的な連携による校内研究を推進し、「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」の関連をもって効果的な作成の在り方を探る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 校内研究組織構造図(R6)に基づき研究(2年次)に積極的に取り組む。 ○ 研究部、自立活動部、教務部、教育支援部で、研究計画の進捗状況の把握・評価を行う。 ○ 研究課題を確認し、課題解決に向けて役割分担に基づき協働する。
<ul style="list-style-type: none"> ○ 教育課程検討委員会(R5)に基づき「単元構成表」の検討と「学習計画表」の検証の二つの側面からカリキュラム・マネジメントの質の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小学部、中学部、高等部では、生活単元学習の「単元構成表」に示されている各教科等の内容の妥当性を検討する。 ○ 小学部、中学部では、令和5年度の「学習計画表」をもとに実施した各教科の指導内容について妥当性を検証する。 ○ 高等部では、各教科等又は各教科等を合わせた指導の「学習計画」を作成する。
<ul style="list-style-type: none"> ○ 知的障害のある児童生徒の「認知の(知る)過程」を研修し、実態把握の充実や授業改善につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 拡大研究部会に「ファシリテーター校内研修会」を設け、認知、又は「認知の(知る)過程」に関する研究情報を収集・発信し、教職員の力量形成や授業改善に努める。
<ul style="list-style-type: none"> ○ 中・高等部の一貫したキャリア教育の工夫に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中学生徒による高等部体験学習等の計画・実施、検証するなど効果的なキャリア教育を探求し、カリキュラム・マネジメントに努める。 ○ 中学部、高等部生徒の「みつめる力」を高めるための学習を工夫し、校内に発信する。 ○ キャリアパスポートのほか効果的な記録・保存の方法を工夫する。

経営活動の行動計画

教育活動の行動計画

本年度の学部目標、運営、各種委員会や分掌部活動、研究、研修、各種計画の作成・実施などに反映させること。

学校評価(教職員)と業績評価/能力評価を関連付けて実施

14